

○ 協働事業の概要

記入年月日 平成 31 年 3 月 22 日

事業名	小平らしい生き物の調査事業
団体名	特定非営利活動法人 NPO birth
担当課名	環境政策課、水と緑と公園課
事業期間	平成 30 年 4 月 20 日～平成 31 年 3 月 22 日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

①地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

2010年10月に愛知県名古屋市でCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が開催され、国がCOP10で策定された愛知目標の達成に向け、2012年に生物多様性国家戦略を改定し、生物多様性への取組がより具体的な目標の上で進められるようになった。ただし、生物多様性という言葉自体、まだ市民に対して浸透していないのが実状である。

そのため、本事業は生物多様性の普及啓発を主眼において進めることとなった。事業内容は、小平市内の生き物の調査を実施し、調査地の自然環境の現状を把握し、調査を基に、生物多様性を普及啓発させるための、自然観察会や生物多様性講演会の開催。調査で見られた生き物を紹介するリーフレットを20,000部作成し、配布することで、多くの市民に対して、興味関心を高めることができた。

②団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。)

武蔵野地域で活動していることや専門技能を持つスタッフを有することを活かした生き物の調査、また自然観察会や生物多様性講演会を市民に近い立場で活動してきた団体ならではの視点で開催することは、多くの市民の共感を引き出すことができた。自然環境全般に精通している当該団体が事業展開することで、専門的知識を必要とする当該事業をより効果的・効率的に進めることができた。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

各プログラムを実施する上では、必ず打合せを行い、内容、スケジュール、役割分担について綿密な確認を行った。また、確認事項や情報提供についても電話やメールを利用し、頻繁にやり取りをして、情報共有を図った。そのため、互いの組織としての理念や考え方、本事業の目的を共有することができ、足並みを揃えて事業を展開することができた。

④改善提案がありますか。

事業の進め方や内容については、打合せや情報共有を行うことで、スムーズに進めることができたが、広報活動については、市が中心に市報、ホームページ、メルマガ、プレスリリースを行ったが、もっと多くの方に参加いただけるような

工夫が必要であった。

自由記載欄